

**東儀秀樹**さん

[雅楽師]



奈良時代から1300年間、雅楽を世襲してきた楽家に生まれ、雅楽師として活躍される一方で、絵本の挿絵を描き、ドラマに出演するなど、多彩な活躍をする東儀秀樹さん。子どもに雅楽を教えた経験や教育について思うところを伺ってみました。

**タイから来たと言わなかった先生**

小学2年生、東京の学校への編入初日のこと。担任の先生は「今度のお友達はすごく遠いところから来たんですよ」と紹介しただけで、僕がタイから来たことを言いませんでした。おかげで、みんなはどこから来たのか興味津々。人それぞれ遠いところの範囲は違って、「北海道？」と聞く子もいれば、「アメリカ？」と聞く子もいて、僕も情報を小出しにしてすぐに教えなかった。まさになぞなぞのような感じでコミュニケーションがスタートし、すんなりとクラスに溶け込みました。だから、先生が子ども同士のコミュニケーションに任せようとしたのはうまくいったといえます。

でも、このやり方は賭けかもしれません。もし僕が質問攻めにあわないようにちゃんと説明しておいてほしいと思うタイプの子だったら、このやり方は失敗だったでしょう。何事においてもこれが絶対的にいいというものはありません。だから、大変な作業ですが、子どもの性格や反応を想像し、一人ひとりにきちんと向き合うことが大切だと思います。

**「やりたい」と思わせるのが大事**

ときどき人に<sup>ひちりき</sup>筆箒や雅楽などを教えることがあります。その際、古典的に継承されているやり方を一辺倒にやるだけでは、あまり効果的とは言えません。それは子どもに教える場合も同じで、ゲームのようにもっていくと伸び

る子もいれば、きちんとルールを敷いた方がいい子もいます。同じ成果をあげるにも、この子にはどういうやり方をすれば最善か。それを考えるのを面倒だと思う人もいるでしょう。でも、僕はそれを苦と思わず、むしろパズルを解くように楽しんでいます。

もう一つ、教える際に重視しているのは「やりたい」という能動的なスイッチを入れることです。国語でも算数でも、音楽でも、教えられるから習おうではなく、教えてもらいたくなれば、自然に自分でいろいろなことを吸収します。

たとえば、僕が子どもたちに筆箒を教えるときは、最初に雅楽の説明をするという方法はとりません。それよりも今学校で流行っている曲をたずねて、それをすぐに吹いてみせます。もちろん知らない曲を言われることもあります。そんなときは違う曲を挙げてもらったり、メロディーを教えてもらいながら演奏します。おなじみの曲が聴いたことのない音色で奏でられる。すると、すぐに子どもたちは目を輝かせ、「吹いてみたい人？」と聞けば、こぞって手を挙げます。

要はいかに子どもたちをわくわくさせるかです。先生には子どもたちのやる気を刺激しようとするモチベーションが絶対にあった方がいいと思うし、その方が先生自身、やっていて楽しく、やりがいも感じられるはずです。

また、子どもたちに何かを教えるとき、全員を好きにさせる、あるいは好きと言わせることを目標にしないでほ

しいですね。それは子どもの心を無視した教育方法になります。与えたものを好きと思っても、嫌いだと思ってもいい。子どもは本当に純粹で、大人のように頭で考えるのではなく、素直に心で感じます。だからこそ、本物を与え、心の幅を広げる教育を行ってほしいと思います。文化については特にそれが大事です。

**一瞬一瞬の出会いを楽しむ**

自分の生き方として、僕は目的を持たないタイプ。だから、もし突然、横から車が飛び出してきても、出るべくして出てきたんだと思って、この状況にどう対応するかを考えるから、一瞬一瞬の出会いや出来事に夢中になれます。一方、まっすぐここに行かなければとあらかじめ目的を定めてしまうと、フレキシブルさが失われてしまうし、もし右に行っていたら…、という未知の可能性まで排除してしまうことになります。

どんなにいい目的や理想の教師像であろうと、それが圧迫や疑問になるぐらいなら、最初から持たない方が歩みやすいはず。しかも、その理想は肌身で感じたものではなく、先生になる前に教わった机上の理想ではないでしょうか。こうあるべきという考え方と同じで、勉強して得た理想については、常に本当にそうなのかと疑問を持つこと。そして、まずは目の前の子どもたちが幸せになるにはどうしたらいいか、現場で感じることを大切にしてほしいと思います。

**PROFILE**

とうぎ・ひでき ●1959年東京生まれ。幼少期を海外で過ごし、ロック、クラシック、ジャズ等あらゆるジャンルの音楽を吸収。高校卒業後に宮内庁楽部に入り、筆箒のほか、琵琶、鼓類、歌、舞、チェロを担当。宮中儀式や皇居で行われる雅楽演奏会に出演し、海外公演にも参加。1996年のデビューアルバム『東儀秀樹』で脚光を浴び、以後次々とアルバムをリリース。最新アルバムは『地球よ、』（2009年7月発売）。

**何事もこれが絶対的にいいというものはない  
最善のやり方は一人ひとり違う**